

第22回(総会通算第50回)
社団法人 福岡市薬剤師会
通常代議員会

日時 平成2年4月21日(土) 午後1時45分

場所 市薬会館講堂

出席者 古賀会長、竹尾、高倉、長谷川各副
会長、藤原専務理事、三津家、松枝、
坪根、正岡、篠崎各常務理事、木原、
高杉、南島、冷川、城戸、小野、藤
田、成澤、市花各理事、日高監事

代議員

東支部 柴田伊津郎、井原俊一、松井昌也
入江理裕、藤野哲朗、吉村順二

博多支部 富永雄造、鶴原 潔、石井雅明
山口利英、森川公雄、渡辺久代
蔵元良行、阿波欽次、碓井正治

中央支部 森田 明、副島恒夫、中野 佐
勢島 充、戸田重雄、西森基泰
光安龍彦

城南支部 合澤英夫、栗田邦彦、深江暉夫

早良支部 野田靖夫、豊原伸一、本村精也
坂本 励、清水達三、波多江敬三
有馬 純

西支部 吉田 斌、竹尾禎二、中野勝郎

南支部 古賀茂次、木村英樹、具島圭次
山口 博、深見俊彦、有田俊雄

勤務 椋島和子、金枝正巳、豊福和登
中尾次広子

一般会員 15名

来賓

末藤福岡市助役

加藤衛生局長

野間薬務課長

荒巻県薬会長

久保田市議(代理松井秘書)



会長演述 古賀会長

本日は週末のお忙しいなか、末藤助役様はじめ、かくも多数のご来賓のご臨席を賜わり代議員会を開会できますことは、大変光栄なことでございます。

この一年を振り返ってみますと、大きな事業が四点ございました。

1. 昨夏の参院選に際しては、自民党に対する大変な逆風のなか、薬剤師会の総力をあげて望み、石井道子議員の再選を果たすことができました。これは皆様のご協力のおかげだと心より感謝申し上げます。

2. 西鉄の高架事業に伴い土地の一部を譲渡し、会館の建設を致しました。私が会長になってより、三年を越す市との折衝をなし、市当局の暖かいご理解と、久保田市議を始め諸先生方のご助力により、四年目にして前よりも立派な会館を建設することができました。

3. 厚生省より国立病院の院外処方せん30%発行の表示があり、又時を同じくして、福岡市内科医会からも同様の申し出があり、そのどちらとも、数回に亘る協議を重ねてきています。

昭和49年が分業元年と言われてきましたが平成元年は面分業元年と言われるようです。市薬では正岡常務理事のもと、社保委員

▲ 会議

司会 正岡常務理事

開会挨拶 竹尾副会長

の先生方が真剣にこれに取り組んでいまして新年度事業の大きな柱となっています。会員の先生方には、ぜひとも前向きに取り組んで頂きたいと思います。

4. アジア太平洋博覧会に、三師会で「健康いきいきドーム」を出展し、80万人の入場者を得、成功裡に終ることができました。他の二師会と共に薬剤師会もこの中に入れて頂き薬剤師会の名前を地域の皆さんに知って頂いたことは、大変意義深いことでありました。

これからは殻に閉じこもった旧態依然とした薬剤師会ではなく、社会に向って開かれた薬剤師会になっていかねばなりません。内外ともに諸問題を控えての年一回の通常代議員会です。将来の薬剤師職能の発展に向け、慎重にご審議頂きますようお願い致します。

来賓祝辞要旨

桑原市長（代理末藤助役）

先生方には、日頃から健康づくり事業、急患診療事業、学校保健等本市行政推進のため一方ならぬご支援ご協力を賜わり心から感謝申し上げます。

近年我が国では急速な高齢化社会の到来により癌や心臓病等成人病が増加し、疾病構造の変化による新たな対応を迫られております。今後、全ての人々が安心して医療サービスが受けられる「保健予防システム」を構築していかなければなりません。このような状況のなかで医薬分業の推進とともに学術や試験機能を持ちそなえた薬剤師会に期待するところ大であります。

野間誠司薬務課長

本日は代議員会にお招き頂きありがとうございます。

人生80年時代を迎え、いろんな法律が整備されてきていますが、昭和60年医療法が改正され、薬局は医療施設として初めてその中に位置づけられました。そして又この改正に基づき福岡県の地域医療計画も3月31日、ようやくできあがり告示されました。医薬品の安全性と有効性、医薬分業の推進、血液対策を本県薬務行政の三本の柱としておりまして、薬

剤師会に期待するところ大であります。病院勤務の先生方にとりましても院外処方せんの発行、病棟に出向いての医薬品の管理、服薬指導等仕事内容が変化してゆくものと思われます。

いずれにしましても、医薬品がある限り、薬剤師は絶対必要なのです。将来に向け積極的な自覚をお願いする次第でございます。

荒巻善之助県薬会長

古賀市薬会長の演述の中にあつた国立病院の院外処方せんの発行については、10数年前のアレルギーが残っていて、危惧の念をお持ちの方も多いと思いますが、この分業への追い風は、東欧社会の崩壊と相通ずるものであり、インフォームドコンセントの浮上に伴い、世界中が医薬分業のなか、日本だけがそうでないことは、もはや許されない状況である。

否応なしに分業に進んで行く現在、中味のしっかりした分業に努力をするかしないかは薬剤師の社会的評価が得られるかどうかにか継がってゆくものと思われます。

県薬では、足腰をしっかり社会の中に着けた面分業推進に向け、ソフト面（研修）の充実に力を入れていく所存であります。

祝電披露

太田誠一衆議院議員

早麻清蔵県議

久保田秀巳市議

議事

栗田議長、富永副議長により議事進行物故者の方々に弔意を表し、一分間の黙禱をささげます。

本日の出席代議員数59名中45名、よってこの代議員会は成立する。なお議事運営をスムーズに行うため、報告及び議案事項を一括上提し、質問は後ほどまとめて受けることとする。

議事録署名人

石井雅明、清水達三

〔1〕報 告

第1号 平成元年度会務並びに事業報告

する件を保留し、会営薬局用地並びに建物取得の件、借入金限度額変更の件原案通り可決。

1. 一般会務関係報告

(1) 会 員 数 平成元年3月末現在
836名
平成2年3月末現在
859名
(内訳) 薬局452、一般販売業113、薬種商4、勤務その他233、賛助会員32、C会員25
(A 569、B 233、C 25、賛助32)

部 会 数 平成2年3月末現在
36部会
東支部5部会72名、博多支部10部会117名、中央支部7部会110名、早良支部3部会67名、城南支部3部会32名、西支部3部会36名、南支部5部会66名、部会所属外4名

保険薬局数 会員380名

(2) 会 議

① 第20回通常代議員会(総会通算第48回)
平成元年4月22日(土)

福岡市中央区渡辺通り2丁目7-21 タカクラホテル福岡にて開催し、慎重審議の結果、報告事項承認され、議案総て原案通り可決される。同時に高齢者、還暦会員並びに63年度被表彰者を囲んで祝賀会を行う。

② 第21回臨時代議員会(総会通算第49回)
平成元年7月15日(土)

福岡市中央区渡辺通2丁目7-21 タカクラホテル福岡にて開催、会営薬局取得に伴う拠出金に関

③ 理 事 会 (14回)
④ 正副会長会議 (2回)
⑤ 監 事 会 (1回)
⑥ 顧 問 会 (2回)
⑦ 支 部 長 会 (5回)
⑧ 部会連絡協議会 (3回)
⑨ 委 員 会
組 織 委 員 会 (6回)
薬 局 委 員 会 (10回)
社 保 委 員 会 (13回)
急 患 委 員 会 (10回)
学 術 委 員 会 (9回)
会営薬局特別委員会 (3回)
広 報 部 会 (5回)

(3) 表彰関係

勲三等瑞宝章

平成元年4月 河 野 喜美彦
藍綬褒賞(薬事、保健衛生)

平成元年4月 藤 野 義 彦
文部大臣賞(日学薬50周年記念)

平成元年4月 竹 尾 啓 二
野 口 美智子
厚生大臣賞(薬事功労)

平成元年10月 竹 尾 啓 二
法務大臣賞(更生保護功労)

平成元年10月 富 永 泰 資
福岡県知事賞(薬事功労)

平成元年10月 成 澤 哲 夫
豊 福 利 治

九州山口薬剤師会長賞

平成元年10月 古 賀 隆
公衆衛生協会理事長賞

平成元年10月 江 頭 溜
福岡県学校保健会長賞

平成元年10月 竹 尾 啓 二
福岡県教育委員会賞(教育文化功労)

平成元年11月 三津家 正 友
福岡市学校保健会長賞

平成元年11月 木村英樹
福岡県薬剤師会長賞

平成2年3月 木村英樹
高杉正典

2. 恒常的事業

(1) 共済事業

① 会員死亡

稲葉時子 (63才昭和63年12月23日)

村上雄次 (60才平成元年4月12日)

芳野直行 (65才平成元年10月28日)

藤家輝雄 (50才平成2年2月10日)

川島圭介 (67才平成2年3月2日)

(2) 研修事業

1) 薬物療法研究会

日時 平成元年4月20日(木) 午後6時30分

場所 三和化学福岡メディカルホール 受講者67名

演題 ニューキノロン剤について
第一製薬福岡支店学術課課長代理
弓山紀代子先生

2) 学術研修会

日時 平成元年6月20日(火) 午後6時30分

場所 三和化学福岡メディカルホール 受講者81名

演題 泌尿器疾患と感染症について
九州大学医学部泌尿器科講師
松本哲郎先生

3) 学術研修会

日時 平成元年7月24日(月) 午後6時30分

場所 三和化学福岡メディカルホール 受講者90名

演題 ワクチンの最近の進歩
化血研学術業務課
宇野信吾先生

4) 学術研修会

日時 平成元年9月21日(木) 午後6時30分

場所 三和化学福岡メディカルホール 受講者90名

演題 不整脈の病態と薬物療法
山之内製薬KK医薬部プロジェクトマネージャー

貫井慎二先生

5) 学術研修会

日時 平成元年10月20日(金) 午後6時30分

場所 三和化学福岡メディカルホール 受講者68名

演題 不整脈の病態とその治療
済生会福岡総合病院内科部長
土居壽孝先生

6) 学術研修会

日時 平成元年11月21日(火) 午後6時30分

場所 三和化学福岡メディカルホール 受講者66名

演題 歯科疾患の予防と治療
福岡市歯科医師会学術担当理事
花田勝正先生

7) 薬局薬剤師研修会

日時 平成2年2月9日(金) 午後7時

場所 福岡市薬剤師会館 受講者67名

演題 地域医療における薬局薬剤師の役割
行政の立場より
福岡県衛生部薬務課
成国勝彦先生
病薬の立場より
九大病院薬剤部助教授
樋口駿先生

8) 会館落成記念特別講演会

日時 平成2年2月23日(金) 午後7時

場所 福岡市薬剤師会館 受講者91名

演題 バイオ医薬品について
住友製薬株式会社研究所主席
研究員
安喰英夫先生

9) 学術研修会

日時 平成2年3月27日(火) 午後7時

場所 福岡市薬剤師会館

受講者92名

演題 肝臓病とその臨床、パートI
福岡市民病院副院長医学博士
広重嘉一郎先生

10) 調剤報酬改定説明会

日時 平成2年3月30日(金) 午後6時30分、7時30分

場所 福岡市薬剤師会館

受講者259名

講師 社保委員

(3) その他

① 第10回ソフトボール大会

日時 平成元年11月5日(日)

参加者106名

場所 武田薬品工業グラウンド

支部対抗 優勝 城南、早良、
西支部 準優勝 勤務部会

② 第8回懇親ボーリング大会

日時 平成2年1月21日(日)

参加者100名

場所 城山スポーツパレス

支部対抗 優勝 東支部、
個人優勝 東英二(ライオン
薬局)

3. 重点事業報告

本年度の最大事業は会館の建設であったが、完成を見たことにより、分業推進事業や試験センター事業等に対する態勢が整い、新たな発展が期待される。

分業問題に関しては、国立福岡中央病院対策として、同病院の移転に備え会営薬局用地並びに建物を取得するとともに、現在地での処方せん発行促進を目的として、度重なる折衝を行い問題点の解決に努力した。

又、福岡市内科医会とも協議を重ね、各支部での協議、懇談会を行った結果、分業気運の高まりを見せている。

参議員選挙においては、今までにない強力

な後援会活動を行った結果、石井道子議員の再選を果すことができた。このことは、会員の政治意識の高揚と相まって、組織力の強化につながった。

(1) 組織の強化

- ① 支部活動に際し会長他役員出席
- ② 会報の内容充実努力
- ③ 会員の親睦活動として、ソフトボール大会実施
- ④ 一般勤務薬剤師の支部所属について検討
- ⑤ 非会員及び部会外会員の入会勧誘

(2) 薬局業務の充実

- ① 薬局の整備及び医薬品の適正な管理についての情報伝達
- ② 服薬指導、薬歴管理実行の啓発
- ③ 各種研修会実施並びに積極参加要請
- ④ 商組活動への支援、協力態勢確立

(3) 分業推進と研修

- ① 国立福岡中央病院対策実施
- ② 福岡市内科医会との協議並びに支部活動支援
- ③ 各種指導と研修事業実施
- ④ 備蓄リストの作成と整備
- ⑤ コンピューター、ファックス導入による受け入れ態勢のシステム化検討

(4) 地域医療への協力参加

- ① 市立急患センターへの協力
- ② 公的委員会、協議会への参加協力
- ③ 福岡市健康週間行事及び薬と健康の週間行事に参加しヘルス事業へ協力
- ④ 学校保健活動の推進
- ⑤ 公衆衛生、薬害防止運動への協力
- ⑥ アジア太平洋博覧会「健康いきいきドーム」への出展

(5) 試験センター業務

- ① 市立学校飲料水質検査実施224校
- ② 県立学校プール水質検査実施15校
- ③ 簡易専用水道法定検査実施182校
- ④ 医薬品計画試験実施116品目
- ⑤ 日薬医薬品統一試験実施

1) 臭化ブチルスコポラミンの定量

- (マルコ製薬ビビーフ錠)
- ② 胃腸薬の制酸力、PH試験(住友製薬マリジンM)
- ③ ブドウ糖注射液の異物、PH、純度試験及び定量(模範薬品研究所、20%ブドウ糖注射液)
- ④ 希ヨードチンキ中のヨウ素及びヨウ化カリウムの定量(健栄製薬希ヨードチンキ)
- (6) 福岡市薬剤師会館建設竣工
平成元年11月20日
- (7) 会営薬局準備用「シーサイドももちコートハウス」購入
平成元年9月27日

関係団体報告

- 学校薬剤師会 坪根常務理事
- 勤務部会 長谷川副会長
- 女子薬剤師会 城戸理事
- 商 組 南島理事

第2号 第62回(臨時)第63回(通常)福岡県薬剤師会代議員会出席報告

南島理事より報告

1. 第62回臨時代議員会並びに総会
日時 平成元年6月25日(日) 午後1時30分
場所 福岡県薬剤師会館
2. 第63回通常代議員会並びに総会
日時 平成2年3月21日(火) 午前11時
場所 福岡県薬剤師会館

(2) 議案

第1号 平成元年度歳入歳出及び会館建設特別会計決算認定の件

平成元年度

福岡市薬剤師会歳入歳出決算書

自 平成元年4月1日

至 平成2年3月31日

1. 収支計算の部

〔歳入の部〕

款	項	平成元年度 予算額	平成元年度 決算額
第1款	会費	52,668,000	57,401,250
第1項	会費	49,968,000	50,091,250
第2項	入会金	2,700,000	7,310,000
第2款	保険薬局会費	11,600,000	12,801,380

第1項	保険調剤特別会費(市)	8,700,000	9,670,444
第2項	保険調剤特別会費(県)	2,900,000	3,130,936
第3款	雑収入	3,000,000	753,206
第1項	雑収入	3,000,000	753,206
第4款	繰入金	12,120,000	13,535,851
第1項	福岡市よりの事業補助金	4,100,000	4,100,000
第2項	福岡市よりの事業未収金	1,500,000	1,500,000
第3項	水質検査受託費	4,500,000	3,049,851
第4項	学業繰入金	600,000	600,000
第5項	市医師会繰入金	420,000	420,000
第6項	試験センター契約料繰入金	1,000,000	3,866,000
第5款	県薬よりの補助金	2,339,000	2,339,000
第1項	県薬よりの補助金	1,000,000	1,000,000
第2項	支部活動費	1,339,000	1,339,000
第6款	補償金	73,400,000	78,563,300
第1項	収用補償金	73,400,000	78,563,300
第7款	繰越金	9,332,086	9,332,086
第1項	前年度よりの繰越現金	27,963	27,963
第2項	前年度よりの繰越銀行預金	9,304,123	9,304,123
	特別会計精算受入金	—	40,300,819
	会営薬局取得借入金	—	100,000,000
	収入合計(A)	164,459,086	315,026,892

〔歳出の部〕

款	項	平成元年度 予算額	平成元年度 決算額
第1款	事務費	23,840,000	23,271,822
第1項	費用弁償	1,500,000	2,240,000
第2項	給料	10,600,000	9,846,210

第3項	職員諸給与	340,000	340,000
第4項	旅費交通費	600,000	529,996
第5項	交際費	1,200,000	1,302,977
第6項	会長渉外費	300,000	23,844
第7項	通信費	2,400,000	1,939,709
第8項	器具備品費	100,000	0
第9項	消耗品費	1,300,000	844,556
第10項	福利厚生費	1,300,000	1,119,846
第11項	水道光熱費	1,000,000	815,565
第12項	公租公課	2,000,000	2,754,150
第13項	事務諸雑費	400,000	452,468
第14項	会館維持費	800,000	1,062,501
第2款	会議費	4,000,000	5,087,391
第1項	代議員会費	500,000	814,913
第2項	総会費	700,000	688,500
第3項	役員会費	2,000,000	1,906,673
第4項	諸会議費	800,000	1,677,305
第3款	事業費	20,500,000	19,228,055
第1項	総務部費	500,000	265,900
第2項	組織部費	1,500,000	1,643,623
第3項	学術部費	700,000	1,038,014
第4項	薬局委員会	1,000,000	1,133,300
第5項	社保委員会	1,000,000	768,337
第6項	急患委員会	550,000	601,587
第7項	広報部費	1,500,000	1,545,082
第8項	印刷費	300,000	210,650
第9項	補助金	200,000	200,000
第10項	支部活動費	1,000,000	1,000,000
第11項	薬業経済対策費	500,000	500,000
第12項	職能対策費	1,000,000	990,643
第13項	清水文庫費	50,000	0
第14項	事業諸雑費	100,000	0
第15項	試験センター費	8,000,000	6,903,919
第16項	学薬対策費	600,000	600,000
第17項	部会活動費	2,000,000	1,827,000
第4款	分業推進費	8,000,000	107,803,328
第1項	推進事務費	5,500,000	2,205,007
第2項	三師会対策費	500,000	375,154
第3項	分業推進事業費	1,000,000	4,031,427

第4項	支部分業推進費	1,000,000	1,000,000
第5項	会営薬局購入費	—	100,191,740
第5款	負担金	27,822,500	29,381,048
第1項	県薬負担金	24,322,500	24,402,500
第2項	調剤基本料負担金	2,900,000	3,130,936
第3項	その他の負担金	50,000	65,612
第4項	県薬入会金	550,000	1,782,000
第6款	積立金	500,000	500,000
第1項	職員退職積立金	500,000	500,000
第7款	雑費	300,000	135,644
第1項	雑費	300,000	135,644
第8款	支出金	73,400,000	78,563,300
第1項	特別会計へ支出金	73,400,000	78,563,300
第9款	予備費	6,096,586	0
第1項	予備費	6,096,586	0
支出合計(B)		164,459,086	263,970,588
次期繰越収支差額			
(C) = (A) - (B)		—	51,056,304
合計		164,459,086	315,026,892

2. 正味財産増減計算の部

(1) 増加の部

勘定科目		決算額
款	項	
資産増加額		286,770,446
	土地増加額	55,523,000
	建物増加額	181,784,240
	建物増加額	44,668,740
	設備増加額	1,903,960
	構築物増加額	566,500
	器具備品増加額	1,545,000
	電話加入権増加額	149,968
	職員退職積立預金増加額	629,038
前期繰越増減差額		10,123,978
前期繰越増減差額		10,123,978
増加額合計(D)		296,894,424

(2) 減少の部	
勘定科目	
款 項	
資産減少額	5,758,499
建物減価償却額	5,048,242
設備減価償却額	112,650
構築物減価償却額	15,106
器具備品減価償却額	582,501
負債増加額	100,629,038
長期借入金増加額	100,000,000
職員退職積立金増加額	629,038
減少額合計(E)	106,387,537
次期繰越増減差額(F) = (D) - (E)	190,506,887
剰余金合計〔(C)次期繰越収支差額+ (F)〕	241,563,191

貸借対照表

平成2年3月31日現在

〔資産の部〕	
I 流動資産	51,056,304
1. 現金預金	51,056,304
現金	11,061
普通預金	7,946,556
定期預金	43,098,687
II 固定資産	333,326,564
1. 有形固定資産	327,735,776
土地	101,025,962
建物	221,404,738
〔取得価額 226,452,980〕	
〔減価償却累計額 △ 5,048,242〕	
設備	1,791,310
〔取得価額 1,903,960〕	
〔減価償却累計額 △ 112,650〕	
構築物	551,394
〔取得価額 566,500〕	
〔減価償却累計額 △ 15,106〕	
器具備品	2,962,372
〔取得価額 10,078,850〕	
〔減価償却累計額 △ 7,116,478〕	
2. その他の固定資産	5,590,788
電話加入権	301,954
職員退職積立預金	5,288,834
金	

資産合計	384,382,868
〔負債の部〕	
III 固定負債	105,288,834
1. 長期借入金	100,000,000
2. 職員退職積立金	5,288,834
負債合計	105,288,834
〔正味財産の部〕	
IV 基本金	37,530,843
1. 基本金	37,530,843
V 剰余金	241,563,191
1. 次期繰越収支差額	51,056,304
2. 次期繰越増減差額	190,506,887
正味財産合計	279,094,034
負債及び正味財産合計	384,382,868

財産目録

平成2年3月31日現在

〔資産の部〕	
I 流動資産	51,056,304
1. 現金預金	51,056,304
現金	11,061
普通預金	7,946,556
定期預金	43,098,687
II 固定資産	333,326,564
1. 有形固定資産	327,735,776
土地	101,025,962
建物	221,404,738
設備	1,791,310
構築物	551,394
器具備品	2,962,372
2. その他の固定資産	5,590,788
電話加入権	301,954
職員退職積立預金	5,288,834
資産合計	384,382,868
〔負債の部〕	
III 固定負債	105,288,834
1. 長期借入金	100,000,000
2. 職員退職積立金	5,288,834
負債合計	105,288,834
差引正味財産	279,094,034

会館建設特別会計決算書

自 平成元年4月1日

至 平成2年3月31日

〔歳出の部〕

会館建設工事代	121,484,240
建設工事監理費	4,300,000
ガス配管工事費	1,903,960
会館庭園設備費	566,500
会館器具備品費	1,545,000
電話架設工事費	149,968
会館分租公課	4,244,700
仮事務所関係費	3,134,547
会館落成式費用	2,574,624
その他諸経費	3,904,254
現金預金残高	40,300,819
合計	184,300,819

〔歳入の部〕

前期繰越金	99,434,246
一般会計より繰入	78,563,300
雑収入	830,000
受取利息	5,281,066
合計	184,108,612

職員退職積立金

自 平成元年4月1日

至 平成2年3月31日

〔減少額の部〕

期末積立金	5,288,834
合計	5,288,834

〔増加額の部〕

前期繰越積立金	4,659,796
平成元年度積立金	500,000
受取利息	129,038
合計	5,288,834

以上監査の結果、正確であることを認めます。

平成2年4月3日

監事 磯田正之 ㊟

同日高賢志 ㊟

第2号 平成2年度事業計画決定の件

平成2年度 事業計画(案)

平成元年、厚生省による国立病院の院外処方箋発行を向う3ヶ年を目標に30%に引き上げる強力推進策が発表され、国立福岡中央病

院が指定病院の中に含まれたことから、数度にわたる病院幹部との会談、協議、社保担当理事による具体的推進策を進めており、平成2年度においては、処方箋発行の実現と受入について、予算にも計上し、受入推進を計る。更に内科医会との懇談も徐々に具体的方向に進んでおり、実現可能な地域から、面分業を基本的構想として進展を計っていく。同時に会員に対する分業受入研修が必須となるので、県薬との連携を基に実効ある内容の研修を実施する。

新会館が完成したことにより、試験センター事業を一層充実し、有機的な会館の活用を計っていく。

1. 組織の強化

- (1) 支部活動の支援と強化
- (2) 会報の充実
- (3) 会員相互の親睦と団結の強化
- (4) 一般勤務薬剤師の組織化検討と非会員対策
- (5) 名簿作成

2. 薬局業務の充実

- (1) 基準薬局の育成、努力
- (2) 薬局製剤並びに指定医薬品の活用
- (3) 服薬指導、薬歴管理の実行
- (4) 福岡県広告基準の遵守
- (5) 医薬品の適正管理と安定化
- (6) 商組活動への支援、協力

3. 分業推進と研修

- (1) 国立病院処方箋応需態勢の整備確立と早期実施への努力
- (2) 内科医会及びその他病院との面分業実施への具体的対応と折衝
- (3) 支部三師会活動への積極的支援
- (4) 卒後教育研修並びに処方箋受入れのための研修の実施と受講の義務化
- (5) 分業応需に対応する機器活用
- (6) 備蓄薬品リストの整備

4. 地域医療への協力参加

- (1) 市立急患診療センターへの協力
- (2) 公的委員会、協議会への参加協力
- (3) 市健康週間、区健康フェアへの協力参加

- (4) 学校保健活動、公衆衛生、薬害防止運動への協力
- (5) 三師会活動の強化
5. 試験センター業務
- (1) 学校保健法施行規則第22条の2第1項による検査、及び水道法第34条の2第2項による事業実施
- (2) 医薬品試験に関する厚生大臣指定機関として医薬品の試験検査実施
- (3) 「薬局等構造設備基準」一部改正（昭和62年6月1日施行）により、福岡県西部南部地域薬局等との利用契約事業

ただし、保険薬局 300,000 円（県薬 50,000 円、市薬 250,000 円）

B 会員 20,000 円（県薬 10,000 円、市薬 10,000 円）

C 会員 0 円

第 4 号 平成 2 年度歳入歳出予算決定の件

平成 2 年度

福岡市薬剤師会歳入歳出予算（案）

自 平成 2 年 4 月 1 日

至 平成 3 年 3 月 31 日

〔歳入の部〕

款 項	平成元年度 予 算 額	平成 2 年度 予算額(案)
第 1 款 会 費	52,668,000	60,299,000
第 1 項 会 費	49,968,000	53,899,000
第 2 項 入 会 金	2,700,000	6,400,000
第 2 款 保険薬局会費	11,600,000	21,000,000
第 1 項 保険調剤特 別会費(市)	8,700,000	18,000,000
第 2 項 保険調剤特 別会費(県)	2,900,000	3,000,000
第 3 款 雑 収 入	3,000,000	2,500,000
第 1 項 雑 収 入	3,000,000	2,500,000
第 4 款 繰 入 金	12,120,000	13,420,000
第 1 項 福岡市より の事業補助 金	4,100,000	5,600,000
第 2 項 福岡市より の事業未収 金	1,500,000	—
第 3 項 水質検査受 託費	4,500,000	4,800,000
第 4 項 学薬繰入金	600,000	600,000
第 5 項 市医師会繰 入金	420,000	420,000
第 6 項 試験センタ ー契約料繰 入金	1,000,000	2,000,000
第 5 款 県薬よりの補 助金	2,339,000	2,371,000
第 1 項 県薬よりの 補助金	1,000,000	1,000,000

6. 市薬会史の編さん

提案事項 古賀会長

議案第 3 号に入る前に、ご提案申し上げます。

去る 7 月 15 日に開催された臨時代議員会において、地行浜の会営薬局用地購入と、その拠出金の問題についてご討議頂き、土地購入の件はご承認頂きましたが、そのための拠出金については、次回の代議員会迄に執行部からご提案申し上げることで保留になっておりました。

借入れ金の返済については、国立病院の動行の見通しが立たず、当面（約 5 年間）は借入れ金の利息のみの支払いに滞めることとし、これには A 会員の会費を 5,000 円値上げし、又会館建設に伴う土地譲渡で得られた預金利息を充てることとする旨ご提案申し上げ、前回提出案については廃案と致します。

第 3 号 平成 2 年度会費決定の件

1. 平成元年度の会費は、次のとおりとする。

A 会員 薬局、一般販売業、薬種商販売業者 会費年額 78,000 円

B 会員 勤務、その他 会費年額 29,000 円

C 会員 A 会員と同居する家族である薬剤師 会費年額 8,000 円

2. 平成元年度の新入会者の入会金は、次のとおりとする。

A 会員 250,000 円（県薬 50,000 円、市薬 200,000 円）

第2項	支部活動費	1,339,000	1,371,000	第10項	支部活動費	1,000,000	1,100,000
第6款	補償金	73,400,000	—	第11項	薬業経済対 策費	500,000	500,000
第1項	収用補償金	73,400,000	—	第12項	職能対策費	1,000,000	1,000,000
第7款	繰越金	9,332,086	51,056,304	第13項	清水文庫費	50,000	50,000
第1項	前年度より の繰越現金	27,963	11,061	第14項	事業諸雑費	100,000	50,000
第2項	前年度より の繰越銀行 預金	9,304,123	51,045,243	第15項	試験センタ ー費	8,000,000	9,000,000
合 計		164,459,086	150,646,304	第16項	学薬対策費	600,000	600,000
(歳出の部)				第17項	部会活動費	2,000,000	2,000,000
款 項	平成元年度 予算額	平成2年度 予算額(案)		第4款	分業推進費	8,000,000	—
第1款	事務費	23,840,000	19,900,000	第1項	推進事務費	5,500,000	—
第1項	費用弁償	1,500,000	2,300,000	第2項	三師会対策 費	500,000	—
第2項	給料	10,600,000	7,000,000	第3項	分業推進事 業費	1,000,000	—
第3項	職員諸給与	340,000	350,000	第4項	支部分業推 進費	1,000,000	—
第4項	旅費交通費	600,000	450,000	第5款	特別事業費	—	18,000,000
第5項	交通費	1,200,000	1,200,000	第1項	事務費分担 金	—	6,500,000
第6項	会長渉外費	300,000	300,000	第2項	社保委員会 費	—	1,000,000
第7項	通信費	2,400,000	1,300,000	第3項	三師会対策 費	—	500,000
第8項	器具備品費	100,000	100,000	第4項	分業推進費	—	1,000,000
第9項	消耗品費	1,300,000	850,000	第5項	支部分業推 進費	—	1,000,000
第10項	福利厚生費	1,300,000	850,000	第6項	特別分業推 進費	—	5,000,000
第11項	水道光熱費	1,000,000	800,000	第7項	調剤基本料 負担金	—	3,000,000
第12項	公租公課	2,000,000	2,500,000	第6款	負担金	27,822,500	17,401,500
第13項	事務諸雑費	400,000	400,000	第1項	県薬負担金	24,322,500	26,151,500
第14項	会館維持費	800,000	1,500,000	第2項	調剤基本料 負担金	2,900,000	—
第2款	会議費	4,000,000	4,000,000	第3項	その他の負 担金	50,000	50,000
第1項	代議員会費	500,000	500,000	第4項	県薬入会金	550,000	1,200,000
第2項	総会費	700,000	700,000	第7款	積立金	500,000	43,500,000
第3項	役員会費	2,000,000	2,000,000	第1項	職員退職積 立金	500,000	500,000
第4項	諸会議費	800,000	800,000				
第3款	事業費	20,500,000	25,300,000				
第1項	総務部費	500,000	3,300,000				
第2項	組織部費	1,500,000	1,500,000				
第3項	学術部費	700,000	700,000				
第4項	薬局委員会	1,000,000	1,200,000				
第5項	社保委員会	1,000,000	—				
第6項	急患委員会	550,000	600,000				
第7項	広報部費	1,500,000	1,800,000				
第8項	印刷費	300,000	1,700,000				
第9項	補助金	200,000	200,000				

第2項	会館維持積立金	—	40,000,000	
第3項	分業推進積立金	—	3,000,000	
第8款	会営薬局維持費	—	6,000,000	
第1項	会営薬局維持費	—	6,000,000	
第9款	雑費	300,000	100,000	
第1項	雑費	300,000	100,000	
第10款	支出金	73,400,000	—	
第1項	特別会計へ支出金	73,400,000	—	
第11款	予備費	6,096,586	6,444,804	
第1項	予備費	6,096,586	6,444,804	
	合計	164,459,086	150,646,304	

第5号 借入金限度額決定の件

平成2年度福岡市薬剤師会の借入金限度額は次の通りとする。

一、 金 150,000,000円

栗田議長により、報告および議案事項につき採決に入る。

報告第1号について。挙手多数

報告第2号について。挙手多数

議案第1号について。挙手多数

議案第2号について。挙手多数

議案第3号、第4号、第5号について

挙手多数

以上のように報告および議案事項につき承認されました。



〔3〕 選挙

任期満了による役員選挙

選出方法は選考委員制とする。

選考委員名

東支部	松井昌也、南支部	山口博
博多支部	山口利英、西支部	吉田 斌
中央支部	西森基泰、城南支部	深江暉夫
早良支部	有馬 純、勤務	金枝正巳

〔選出結果〕

会長	三津家 正友
副会長	藤原 良春
〃	長谷川 宏明
監事	磯田 正之
〃	日高 賢次

もう1名の副会長については、当日決定せず後日臨時代議員会を開いて決定することになった。

新会長挨拶 三津家正友先生



閉会挨拶 高倉副会長

還暦会員祝彰を受けられた

左より

大石	圓
蓑田	正和
堀江	秀男
栗田	邦彦
高倉	博

各先生方です。